

政治にパンチ!!

衆議院議員 大島あつしの国政リポート

準備号◆2000年(平成12年)9月15日発行

7月4日初登院の日

有権者への責任の重さを強く実感

7月4日の初登院の朝、午前5時に目覚ましをセットしておいたのに、午前4時半に目が覚めました。国会正門が開くのは午前8時です。他の議員に遅れを取らないようにしなければなりません。身支度を整え、愛用の大きなバッグと当選証書の入った紙袋を手にして、午前6時にサラリーマン時代と同じように高崎線の電車に乗り込みました。

◆全国で2番・埼玉県で1番

高崎線から山手線に乗り継いで国会正門にたどり着いたのは7時45分。開門の15分前です。正門の前には、もう国会議員の人ばかりができていだろうと思っていたのですが、私より先にいたのはどこかの政党の中年議員ただ1人でした。つまり私は、全国480人の衆議院議員のうち2番目、埼玉県では1番目に登院することができたわけです。

正門はちょうど8時に守衛の手によってゆっくりと開けられました。いつの間にか、周囲はマスコミ関係者で溢れています。まず1番乗りの議員が当選証書の入った筒を片手に高く掲げながら国会正門をくぐっていききました。

続いて、私が正門を通り抜けました。衆議院の玄関までの長い道程を1歩1歩踏みしめながら、私は前方の偉容をたたえた国会議事堂から目を離しませんでした。これからこの場所で私は力の限り働くのだ。そう思うと、自分の内から熱い力がどんどんわき上がってくるのを感じたのでした。

衆議院の玄関には議員が登院したかどうかを示す名札があって、名札のボタンを押すと名前が点灯する仕組みになっています。私もボタンを押し「大島敦」の名前を



選挙運動の中で有権者と談笑する大島あつし

点灯させてから院内に入り、衆議院の事務職員に当選証書を見せて、議員バッジを付けてもらいました。議員バッジは当選証書がないと、もらえません。当選証書こそ、文字通り国会議員である証なのです。

この当選証書は、投票日翌々日の6月27日に浦和市の選挙管理委員会に私が自分で足を運んで受け取りました。「普通は当選者本人ではなく秘書などの代理人がもらいに行くのだ」と後で聞いたのですが、私は、当選証書というのはやはり有権者から信任を得た本人がもらいに行くべきだと思います。実際に選挙管理委員会の人から賞状を授与するかのようには当選証書を手渡されたとき、埼玉6区有権者、80,342票の重さをズシリと感じたのでした。これを大事にしたい。少なくとも私だけは、今後自分で当選証書を受け取りにいこうつもりです。

◆政治の最高権力者を選ぶという役割

議員バッジを付けてもらい、それから民主党の代議士会に出ました。その後、首相を選ぶ首班指名の衆議院本会議に臨みました。本会議の席は党派別に区分けされ、同じ政党では当選回数が多くなるほど後ろになり、同じ当選回数だと年齢が高いほど後ろになります。民主党の

新人議員は43名を数えるのですが、私は前から4列目の席です。左隣の自民党席を見ると、4列目の席には当選3回くらいの議員が並んでいます。最前列には、新人だけでも小淵、梶山、後藤田など聞いたことのある名前の人ばかりが座っていました。つまり、民主党は若い議員が多いが自民党は少なく、しかも自民党の若手議員は二世ばかりだということなのです。と

すると、近い将来、政治の中心を担うのは民主党になるに違いありません。

正副議長を選出が終わって、最後が首班指名でした。首班指名は、投票する議員自身も自分の名前を明記して投票する「記名投票」というやり方です。誰が誰に投票したかがすぐに分かります。

いずれにせよ、国会議員の第一の仕事は日本の政治の最高権力者を選ぶということなのです。私はもちろん民主党代表の「鳩山由起夫」に1票を投じました。まさにこの瞬間です。80,342票を投じて下さった埼玉6区の有権者に対する責任の重さを痛感したのは、そして同時に、国会議員として全力を尽くすのだという強い決意が私の全身を貫いたのでした。

(衆議院議員 大島あつし)

大島あつし、8月4日に国会で初質問～衆議院労働委員会



衆議院労働委員会で初質問に立つ大島あつし



大島 敦氏

大島敦氏が初質問

衆議院労働委員

このほど開かれた衆議院労働委員会で大島敦議員（民主、埼玉6区）が初めての質問に立った。

同氏は女性の社会進出を助ける労働省の地域育児介護相互援助事業の「ファミリーサポートセンター事業」について、「設立要件の市町村人口五万人以上とか三百人の会員数の会員数

確保などが、導入を考慮している自治体には大きな足かせになっている、せっかくのいい制度がなかなか普及しない」と指摘した。

これに対して吉川労働相は「この人数は目安というところ、個別案件については柔軟に対応する」と答弁していた。

質問後の大島氏は「大変緊張した。傍らで見ているのと実際にやってみるのでは大違い。答弁を引き出すのは非常に難しい。もっと幅広く勉強して、有権者の期待にこたえられる議論を展開していきたい」と決意を新たにしていた。

初質問の様子が8月9日付け埼玉新聞に掲載



そごうの店舗を訪れ、店員から話をきく。

●民主党衆議院議員ミニデータ

＜期数別議員数＞

1期 43人	2期 31人
3期 17人	4期 20人
5期 5人	6期 2人
7期 3人	8期 1人
9期 2人	10期 2人
11期 1人	合計 127人

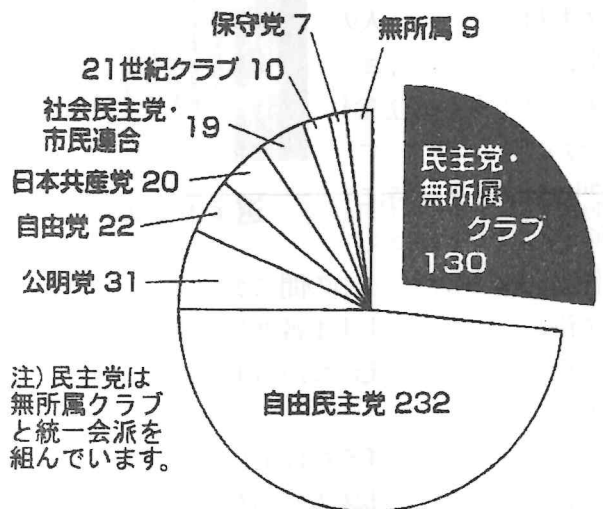
＜平均年齢＞

49.48歳

＜公募当選者は3人＞

- 大島あつし（埼玉6区）
- 津川祥吾（東海比例）
- 水島広子（栃木1区）

●衆議院の会派別勢力分野



7/4 そごう問題等プロジェクトチーム設置

そごう問題等プロジェクトチームは、6月28日に預金保険機構が経営危機に陥った「そごう」に対し、新生銀行(旧日本長期信用銀行)が有する貸出し債権2000億円を買い取り、そのうち970億円を債権放棄する方針を発表したことに端を発し、設置された。

その後、7月12日に、世論の強い反発や、それにあわてた与党幹部の政治圧力を受けて「そご

う」は債権放棄による当初の再建策を断念し、民事再生法の適用を申請し、事実上倒産した。

しかし、国による新生銀行の債権買い取りの根拠となった「瑕疵担保特約」の内容がそもそも問題だとして、民主党は閉会中の衆院大蔵委員会や参院財政金融委員会や、臨時国会の審議で政府の責任や同契約の破棄を求めている。

《大島あつしのプロフィール》

- ・昭和31年生まれ。43才。上尾市在住（北本市出身）。
- ・昭和56年早稲田大学法学部卒業。
- ・昭和56年NKK（日本鋼管株式会社）入社。
- ・平成7年ソニー関連企業に入社。日本青年会議所会員。また、きたもと幼稚園理事長として地或活動に鋭意取り組む。
- ・平成11年民主党衆議院小選挙区候補者公募に応募し合格。
- ・平成12年埼玉6区より総選挙に立候補し当選。

発行：大島あつし事務所

(国会事務所) 〒100-8982

東京都千代田区永田町2-1-2

衆議院第2議員会館310号室

oshima@sakitama.or.jp

FAX：03-3508-3380